

■ 学校教育目標

- ① 高い進学目標を掲げ、一般入試に対応できる学力を身につけながら、個に応じた進路実現ができる学校を目指す。
- ② 学習活動と課外活動とともに重視した高校生活と、それを支える基本的な生活習慣と豊かな人間性の確立を目指す。(文武両道と生活指導の充実)
- ③ 地域との交流・連携事業を積極的に推進し、地域と協働する高校を目指す。

■ 長期的教育目標

- ① 豊かな人間性を養い、知・徳・体の調和のとれた成長と主体的に社会に参画できる生徒の育成を目指す。
- ② 自主・自発的な学習態度を育成し、学力の充実とともに高い進路目標の実現を目指す。
- ③ 特別活動を充実し、文武両道による心身の練磨を目指す。
- ④ 地域に開かれ、地域と連携しながら、地域から愛され信頼される学校を目指す。

■ 本年度の重点目標

- ① 「自主」「意欲」「創造」の人となるために必要な能力や態度をきめ細やかに育むことを通して、自己の在り方生き方を考えさせる学校づくりに努める。
- ② 「いじめのない学校づくり宣言」の精神や活動を大切にして、いじめや体罰を許さない学校づくりに努める。
- ③ 学習や諸活動等で生徒が互いに話し合い、考え、行動しようとする態度を大切にして、主体的で活力のある学校づくりに努める。
- ④ 家庭や地域社会と連携・協働する事業に取り組むことを通して、地域に貢献しながら共に育つ学校づくりに努める。

A:十分 B:おおむねよい C:不十分

	本年度の重点目標	目標達成のための評価の観点	実施した具体的取り組み	観点別評価	○成果 ◆今後の課題 ■改善策・向上策	担当分掌
①	「自主」「意欲」「創造」の人となるために必要な能力や態度をきめ細やかに育むことを通して、自己の在り方生き方を考えさせる学校づくりに努める。	I	生涯に渡って学び続けるために基盤となる基礎学力の習得やそれらを活用する力の育成を目指した授業が実践できたか。	B	○「学びの基礎診断」の結果を受け、個々の生徒の学力定着度により適した課題を出すことができた。 ◆「学びの基礎診断」の分析結果を学年や教科だけでなく、学校全体に周知し、改善につなげたい。 ■学びの基礎診断や模試の結果を職員会議で報告する。	進路学習指導
		II	主体的に意思決定を行う場面を繰り返し仕組むことで、自分らしく生きていくために必要な能力や態度を育むことができたか。	B	○新聞のワークシートを学年ごとに工夫して活用し、推薦入試等の対策に利用したり、自らの探究学習に役立てる生徒もいた。 ◆SHRやLHRだけでは時間が足りないこともあった。 ■各教科の授業でも教科の内容と関連のある時事問題をテーマにして議論する機会を設ける。	進路学習指導
		III	あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら社会の変化を乗り越えるために必要な学習を具現化することができたか。	A	○地域や社会全体の身近な問題を体験したり、具体的に知ることで、自分たちが考えなければならない課題を発見し、努力すべき内容を把握することができた。 ◆学校生活における満足感や自己肯定感の向上に繋がるよう更に充実させていく必要がある。 ■本年度の反省を踏まえて、来年度の計画を改善し、充実させていく。	進路学習指導

A:十分 B:おおむねよい C:不十分

	本年度の重点目標	目標達成のための評価の観点	実施した具体的取り組み	観点別評価	○成果 ◆今後の課題 ■改善策・向上策	主分掌
--	----------	---------------	-------------	-------	---------------------	-----

②	「いじめのない学校づくり宣言」の精神や活動を大切に、いじめや体罰を許さない学校づくりに努める。	I	個人面接指導やアンケートを活用しつつ、日頃から教員間の連絡を密にして生徒の状況を丁寧に把握することができたか。	・担任による面接指導、セルフチェックリスト（毎月）、いじめアンケート（毎月）を実施し、生徒の状況把握に努めた。心配な生徒については、学年・係・担任を中心として対応した。また、必要に応じて、コーディネーターが中心となり、外部の機関とも連携して対応した。	B	◆今後も多様な生徒に対応するため、アンテナを高くして生徒状況を把握し、職員間での情報共有をしっかりとし、状況に応じたすみやかな対応をとりたい。	生徒支援特支Co.
		II	職員は体罰を防ぐために、共感的理解を持って支え合える同僚性を育むことができたか。	・10月の全校人権教育ワークショップでは障害をもちながら社会で活躍している2名の講師をお招きし、生徒・職員全員でインクルージョン、ダイバーシティについて学んだ。	B	○体罰の事案は現時点で報告されていない。 ◆職員向けの研修会を検討したい。	図書・視聴覚・人権教育
		III	生徒手帳や内規をもとにした共通の目線で生徒の生活を整え、指導が必要となったときは進んで係・担当と協働して早急な対応にあたることができたか。	・係プラス職員による立ち番指導、毎月実施の服装頭髪検査とセルフチェックリスト等により状況を把握し、共通の目線で生徒の生活安定に努めた。指導が必要な場合は、学年・係・担当と協働して対応した。	B	◆今後も全職員が共通目線で生徒への声かけ、指導に努めるとともに、指導が必要ときに速やかに対応ができるよう、規定の確認や、係・学年・担当との連携を更に深めたい。	生徒支援
③	学習や諸活動等で生徒が互いに話し合い、考え、行動しようとする態度を大切に、主体的で活力のある学校づくりに努める。	I	授業や諸活動において、すべての基盤となる基本的な知識・技能を獲得させる教材や学んだ知識を活用して主体的に考えさせる教材の研究に努めることができたか。	・観点別評価の定着に伴い、基本的な知識・技能、主体的に考え判断し表現していく力の向上を目指して、授業準備や教材研究に努める。	B	○研修会に参加し、他校と評価方法や教材研究について意見交換できた。また、教科横断型の学びについて研究授業を行い、主体的な学びの方法を模索した。 ◆授業準備や教材研究について、他教科との情報共有や学び合いの機会をとるようにしたい。 ■校内で、できるだけ授業研究の研修会を行う。	進路学習指導
		II	ICT機器を用いたり、生徒が互いに議論する場面を設定したりするなど、生徒の興味関心を高める工夫をすることができたか。	・Google Classroom を用いて課題配信を行った。また、全学年でスタディサプリとロイロノートを活用し、個々の学力定着度に応じた課題を配信した。	B	○ICT機器を効果的に活用した授業が多くなった。 ◆ICTを使った課題配信は、生徒側に過度な負担がかかる場合もある。生徒に応じて配慮できるように教科間調整する必要がある。 ■生徒の授業評価の結果を踏まえて、改善する。	進路学習指導 情報化推進
④	家庭や地域社会と連携・協働する事業に取り組むことを通して、地域に貢献しながら共に育つ学校づくりに努める。	I	生徒が企画する地域連携事業や地域から依頼される事業を支援することを通して、地域から応援される学校づくりを推進することができたか。	・ガーデンプロジェクト、しもすわ産業まつり、しもすわ未来議会、三角八丁ボランティア、向陽ふれあいトーク、向陽坂イルミネーション設置、町会議員と語る会などの企画、参加	B	○町内のイベントにボランティアとして多くの生徒が参加した ◆町と関わる機会を増やし、地域の人たちや町内の中学生などに本校の活動を広く知ってもらい取り組みが必要である。 ■今後も地域連携事業に積極的に取り組むことと中学校訪問などを通して、本校の魅力を知ってもらい機会をつくる。	生徒会
		II	学校ホームページ、向陽坂通信、公開授業などを通して、学校の取り組みや日々の諸活動を家庭・地域に発信することができたか。	・向陽WEB日記内での主な行事に関する発信に加え、10月より公式インスタグラムを始めた。 ・中学生向けの情報発信として、「学校案内」は体験入学と学校説明会への参加者に加え、地区内の中学校に積極的に配布したが、「向陽坂通信」の発行は公式インスタグラムを始めたこともあり1号だけになった。	B	○公式インスタグラムの投稿者として教務係以外の職員にも依頼をしたので、情報発信量を増やすことができた。 ◆本校の魅力が伝わるよう、生徒が熱心に取組む姿を引き続き発見・発信してゆきたい。 ■従来の方法での発信回数をインスタグラムとの相乗効果により増加させた。 ■10月の学校説明会以降も学校見学の申し込みが少なからずあるので、学校説明会の実施日の追加を検討したい。	教務
		III	家庭との一層の連携やPTA活動の充実を願って、PTA活動に参加することができたか。	・文化祭でのバザー・下校指導（PTA委員会）、マラソン大会の沿道補助員（PTA役員）、生徒自ら行う環境整備作業（PTA一般）	B	○文化祭のバザーでは出品数が昨年より増え、来場者数も増え、文化祭に少し貢献できた。環境整備作業もわずかに参加者が増え、体育館周りがきれいになった。 ◆活動の数は限られているが、より多くの会員に参加してもらいたい。	PTA ・同窓会